

勾まが玉たま

志美遺跡出土の勾玉(左3つ)と
筆者の勾玉(右1つ)
※実物は右側の勾玉長さ3.5cm

先日、花川南小学校で行われた「勾玉づくり」(あそびの城主催)の手伝いに行ってきました。当日

は、保護者も含め約150人もの参加者があり、大盛況でした。参加者は皆、

2時間足らずのうち、きれいな勾玉を作って帰りました。

勾玉は縄文時代後半(約3千年前)から古墳時代にか

けて使われた装身具です。材質は、石やガラス、牙きばなどです。有名なのは、古墳時代の勾玉です。日本書紀では「勾玉」と書き、古事記では「曲玉」の字を使っています。

今回は石の勾玉を作りました。

勾玉に使われる石には、ヒスイ、こはく、滑石かすいなどがありますが、今回は滑石を使いました。滑石は、化粧品やベビーパウダーなどに使われる石です。柔らかく、つめで

削れるほどで、加工が簡単です。この石は北海道にもありますが、今回は韓国産の滑石を使いました。

勾玉は形が英字のC字形をしています。片方が丸く片方がややとがっています。丸くなっている方に穴が開けられ、ひもを通して首から下げます。なぜ、C字形をしているのか、よく分かりませんが、動物の牙(例えば熊やオオカミなど)の形をまねたのではといわれています。

縄文時代などでは、勾玉などの玉たまはたんに美しさだけでなく、それ自体に不思議な力があると考えられていたようです。ですから、



現代の玉造たち
(平成17年6月25日撮影)
※勾玉をつくる職人のこと



強い動物の牙をかたどってさらに力を増したいという願いがあったのではないのでしょうか。現代でも、石の力を信じたり癒しなどを求める人が少なくありませんが、こうした現象は、縄文などはるか昔の人の心が伝わっているせいかもしれません。

上の写真は、石狩市新港東の志美遺跡(約2千年前)から出土したヒスイ製勾玉と筆者製作の滑石勾玉です。このヒスイ製勾玉は、新潟県糸魚川付近で作られたもので、それがはるばる石狩に渡り、発見されたものです。

(石橋孝夫)

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp